



すずかけ



歴史への敬意、未来への「希望」

2026年4月から鳥取県立厚生病院は新しいチームでスタートいたしました



鳥取県立厚生病院の理念

思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院
優れた医療を提供し、地域と密着した病院
職員の和を尊び、働きがいのある病院

CONTENTS

- | | | | |
|--------------|--------------------|-------|-------|
| ・インタビュー | 病院長に聞く、医療への思いとこれから | 病院長 | 齊藤 博昭 |
| ・新装置と人材 | 地域医療を守り続けるために | 放射線科 | 河合 剛 |
| ・心に響く本 Vol.1 | 『奇跡のバックホーム』 | 理学療法士 | 岡本 翔 |
| ・連載企画 | からだにやさしいレシピ | 管理栄養士 | |
| ・お知らせ | 新職員紹介、公開講座予告 | | |

～インタビュー～

病院長に聞く、 医療への思いとこれから。



- 1993 鳥取大学医学部附属病院 研修医
- 1994 兵庫県立香住病院 医師
- 1995 鳥取大学大学院医学系
研究科博士課程大学院生
- 1998 鳥取大学医学部附属病院 医員
- 1999 益田赤十字病院 医師
- 2001 鳥取大学医学部附属病院 助手
- 2002 米国ベイラー免疫研究所 博士研究員
- 2004 鳥取大学医学部 助手（第一外科）
- 2007 鳥取大学医学部
助教（病態制御外科）
- 2015 鳥取大学医学部
准教授（病態制御外科）
- 2019 鳥取赤十字病院 第一外科部長
- 2022 鳥取赤十字病院 副院長
- 2026 鳥取県立厚生病院 院長

厚生病院は鳥取県中部地域において『なくてはならない病院』です。私たちの役割は急性期医療を全うすること。地域の皆さんが安心してここで暮らしていけるよう、医療を通じてしっかりと支えていくことが、私の最大の目標です。病院運営において院長が職員に繰り返し伝えていくのが「変化」の重要性です。「現状に留まっていたら、衰退していくだけ。0から1にするのは大変エネルギーが必要ですが、組織をより良くするためには新しいことに挑戦し続けなければなりません。今年度は管理職の若返りもあり、大きなチャンスの時。職員が変化を楽しみ、挑戦できる環境を作ることが、院長である私の仕事だと思っています。



2024年ベストドクターズ受賞

GO!
GO!
INCHO!

新院長就任インタビュー！
プライベートについて
まるっとまるまる聞いてみました！

Q. 医師として働く上で、ストレスも溜まるかと思いますが、ストレス発散方法はありますか？

A. 僕あまりストレス溜まらないんですよ（笑）
小さい頃からそうでしたが、あまり気持ちの面がしんどくなったりはなかったです。

Q. いつも家で何していますか？

A. プライベートは本当に怠け者なんです。仕事モードの時はスイッチが入っていますが、オフの日は家でじーっとしていたいタイプ。実は人見知り激しくて（笑）院長としての挨拶回りも、本当は手術より緊張するし、終わるとぐったりして、すぐに寝てしまいます。趣味もこれといってなくて、面白みのない人間なんです。

Q. 好きな食べ物はなんですか？

A. 好きな食べ物を聞かれたらトウモロコシと答えます。あの甘みが好きで、小さい頃からずっと。それくらいしかエピソードがなくて申し訳ないのですが（笑）

Q. ズバリ！犬派？猫派？



A. 圧倒的に犬派です！
昔、祖母の家で猫にこたつの中で引っかかれたのがトラウマで猫はどうしても苦手。柴犬のような忠実な犬が一番いいですね。



新装置と人材

地域医療を守り続けるために

もしも、大切な家族が突然の病に見舞われたら・・・
住み慣れた地域で、最先端の医療を受けられたら安心ですね。

このたび、鳥取県立厚生病院では、新たに血管撮影装置とMRI装置を導入しました。これらの新装置により、地域の皆さんの検査や治療はどのように変わるのでしょうか。本特集では、住民の皆さんの視点から、新装置によるメリットをご紹介します。また、当院が取り組んでいる脳卒中ワーキンググループ活動「ELVOスクリーン」についてもご紹介します。

「技術の進歩は、
患者の安心につながるが一番大切です」

放射線科部長 河合 剛



○プロフィール

鳥取大学医学部卒業後、放射線科医として勤務。
特に、血管内治療を行うIVR（画像下治療）の専門医として、低侵襲で患者さんの負担を少なくする治療に尽力。

取材・文・撮影 朝倉 頌一

低ひばく検査の実現

最新の血管撮影装置では、従来の装置に比べてX線照射量を大幅に低減できるようになりました。これにより、「放射線被ばく」に対する患者さんの不安を軽減し、安心して検査を受けていただけれます。

被ばく線量が少ないことは、特に複数回の検査が必要な方や、放射線の影響を受けやすい方にとって大きなメリットです。長期的な視点での安全性向上に繋がります。

線量を低減しつつも、高画質な画像が得られるため、診断の精度が落ちることはありません。むしろ、より鮮明な画像で正確な診断が可能になります。

”もしも“の時に頼れる、迅速な緊急対応力

心筋梗塞や脳梗塞、大動脈解離など、一刻を争う血管疾患では、迅速な検査・治療開始が患者さんの生命予後を大きく左右します。

この度、最新の血管撮影装置が2台体制になったことで、緊急時の対応力が飛躍的に向上しました。これにより、他の患者さんの検査中でも、もう一つの装置を使っただけで緊急対応が可能となります。緊急の患者さんに対応しながらも、予定されていた検査や治療を中断することなく、スムーズに進行できるようにします。鳥取県中部地区で唯一の公的病院として、医療圏の救急搬送件数の約5割を受け入れている（休日・夜間の救急受診件数だと7割）当院にとって、この24時間対応体制の強化は、地域住民全体の大きな安心感に繋がります。遠方の病院に搬送されることなく、地元で質の高い緊急医療を受けられるメリットは計り知れません。

「言葉が出にくい」

「視野が欠ける」

「突然の片側の手足の麻痺やしびれ」

「意識がおかしい」

「ろれつが回らない」

それは、脳卒中を疑う症状です。

脳卒中ワーキンググループ活動 E.L.V.Oスクリーン

「突然の症状にどうすればいい？
この病院なら安心できる？」

当院では、脳卒中が疑われる患者さんをいち早く、専門医が迅速に診断・治療を開始するための院内の取り組みE.L.V.Oスクリーンを推進しています。この活動は、特に大きな脳血管閉塞（ELVO）を見逃さず、早期の血栓回収療法などに繋げることを目的としており、脳梗塞の早期診断、特に血栓の場所や脳組織の状態を詳細に把握する上で要となります。これにより、救急搬送された患者さんに対し、より迅速かつ正確な診断が可能となり、超急性期脳梗塞の治療適応を判断する時間を大幅に短縮できます。時間短縮は、発症後の生活の質を大きく左右します。

—— 住民の皆さんへのメッセージ ——
「見逃さない、遅らせない。それが、私たちの脳卒中救急。」

『もしも』の時に、頼れる病院として、私たち鳥取県立厚生病院は常に備えていることを知ってほしいと考えています。



心に響く本 vol.1



■ 奇跡のバックホーム
(横田慎太郎 著 幻冬舎)



■ 栄光のバックホーム
横田慎太郎、永遠の背番号24
(中井由梨子 著 幻冬舎)

プロ野球選手としての活躍を期待されながら、脳腫瘍のため、28歳で世界した横田慎太郎さん。

2025年に映画化されて反響を呼んだ原作本について理学療法士の岡本 翔さんが紹介します。

おしえてくれたひと

リハビリテーション室 理学療法士 岡本 翔



■ 全力プレーの裏で…衝撃の事実

横田慎太郎著『奇跡のバックホーム』と中井由梨子著『栄光のバックホーム』を読み、映画『栄光のバックホーム』を鑑賞し、一人の野球選手の生き方や、困難に向き合う姿について深く考えさせられました。

私はもともと阪神タイガースのファンで、横田選手が活躍していく姿をとて楽しみにしていました。身体能力が高く、全力でプレーする姿がとても印象的で、これから阪神を引っ張っていく選手になるのではないかと期待していました。

そんな中で脳腫瘍という大きな病気を患って闘病中という事実を知ったときは、とても衝撃を受けました。

■ 本・映画に描かれた横田選手の生涯

『奇跡のバックホーム』は横田選手自身の言葉で書かれており、病気によって視力が低下し、それまで当たり前でできていた野球ができなくなってしまう苦しさや葛藤が率直に語られていました。それでも、もう一度グラウンドに立ちたいという思いを持ち続け、懸命にリハビリに取り組む様子が書かれており、強い意志を感じました。

一方、『栄光のバックホーム』では、家族やチームメイトなど周囲の人たちの視点から横田選手の姿が描かれており、多くの人の支えがあったことが分かりました。本人の努力だけでなく、支える人たちの思いや葛藤も

丁寧に描かれており、横田選手がどれだけ多くの人に愛されていたかが伝わってきました。

そして映画『栄光のバックホーム』で描かれた横田選手の生涯。最初から最後まで涙が止まりませんでした。特に、引退試合でのバックホームの場面では、横田選手が最後まで全力でプレーする姿に胸が熱くなりました。本で内容を知っていても、映像として見ることで横田選手や周囲の方々の思いの強さがより伝わってきました。

■ 支えあいの大切さ…理学療法士として思うこと

私は、病院で理学療法士として働く中で、病気や怪我によってそれまで当たり前でできていたことができなくなり、不安やくやしさを抱える患者の皆様を多く見てきました。そうした方々がリハビリを通して少しずつ前を向いていく姿を見ることもあり、その裏には本人の努力はもちろんのこと、家族や医療スタッフなど周囲の支えがあると感じています。

今回紹介させていただく本や映画は横田選手の姿と私自身が現場で感じる重なる部分が多く、とても心に響きました。

この作品は阪神ファン、野球ファンだけでなく、病気や困難に直面している方、支える方など、誰もが一度は読んでほしい作品だと感じました。困難な状況でも前を向いて生きること、そして人と人との支えあいの大切さを改めて教えてくれる作品だと思います。

一度手に取り、読んでいただくことをおすすめします。



映画『栄光のバックホーム』 (2025年11月全国公開)

幻冬舎フィルム第一回作品 ©2025「栄光のバックホーム」製作委員会

厚生病院図書室のご案内

開室日 月～金 (土日祝以外)

時間 9:00～12:00
13:00～16:00

県立図書館「ほっとこーなー」、
図書室ギャラリーなどがあります。
お気軽にお立ち寄りください。



わたしも読みました (外来患者の方より)



阪神優勝、宙を舞った24、エッ何?!

診察を待つ間、図書館で見つけた、これだ!

若者が熱中している時、突然の不治の病、それにもめげずつき進み、再びバックホーム、奇跡なんかじゃない、彼の魂だ! これだけでも大変なのに、再発後、自分の生きる道をつき進む横田選手。涙々の読後、病気で落ち込む自分の愚かさ! 彼の人生そのものが栄光のバックホーム、生き方そのものを教えてくれました。



からだにやさしいレシピ

今回の食材

茄子
eggplant

その美しい見た目だけでなく、私たちの健康をサポートする栄養がぎっしり詰まった「食べる万能薬」であることをご存じでしょうか？

皮の紫色の色素成分であるナスニン（ポリフェノール）による強力な抗酸化作用で美容と生活習慣病予防に貢献。さらに、カリウムがむくみ解消や高血圧予防をサポートし、食物繊維が腸内環境を整えて便秘解消やデトックスに役立ちます。

今夜はこれ！茄子とひき肉、ごまの香りで食欲爆発！

茄子のひき肉のせごま焼き



・なす2本

A: 鶏のひき肉160g、たまねぎ(みじん切り)30g

卵1/2個、小麦粉大さじ1/2、さとう 小さじ1、みそ 大さじ1
料理酒 大さじ1

・小麦粉 適量、ごま 適量、油 大さじ1

・つけあわせの野菜 適量

1. なすはへたを除き縦2つに切る。断面に小麦粉をふっておく。
2. ボウルにAを入れ、ねばりが出るまでよく混ぜる。
3. 2を4等分に分け、1のなすの小麦粉の面に広げ、平らにならす。表面にごまをふる。これを4つ作る。
4. 温めたフライパンに油をひき、3をひき肉の面から焼く。焼き目がついたらふたをして弱火で約2分、肉に火がとおったら裏返し、中火で約2分焼く。

1人分：エネルギー264kcal たんぱく質18.5g 脂質14g 塩分1.3g

茄子ツトヘルシーおいしさ弾む！

information

鳥取県立厚生病院 健康公開講座

これだけは知っておきたいシリーズVol.7

地域がん診療連携拠点病院として、地域の皆様に「がん」について理解を深めていただくために、定期的に健康公開講座を開催しています。今回は、「これだけは知っておきたいシリーズ第7弾 身近ながんのお話 ーおなか編ー」をテーマに、胃がん・大腸がんの診断や治療、治療中の支援について講演を行います。皆様にとって、がんの早期発見や適切な治療への理解を深める機会となるよう、多くのご参加をお待ちしております。

▲最新情報は
こちらからご
確認ください

1. 胃がんのお話
病院長 齊藤博昭
2. 大腸がんのお話
消化器内科医長 中田裕資
3. 治療中の支援について
がん化学療法看護認定看護師 村尾祥江

前回のクイズの答え「C」

令和8年度 鳥取県立厚生病院健康公開講座 地域がん診療連携拠点病院

これだけは知っておきたい シリーズ No.7

身近ながんのお話 ーおなか編ー

7月4日(土)

時間▷13:30~15:30(受付開始13:00)

場所▷倉吉交流プラザ2階視聴覚ホール(倉吉市立図書館2階)





内科
宇奈手 咲子



内科
井上 貴稀



脳神経内科
名木田 優子



消化器内科
萩原 大護



厚生病院
シンボルマーク



整形外科
森下 紘司



整形外科
川口 真平



消化器外科
郡司 蒼平



胸部外科
鈴木 隆将



血管外科
徳留 純平



脳神経小児科
土江 宏和



小児科
奥田 綾乃



小児科
矢倉 和



放射線科
森脇 聡美



病理診断科
尾崎 加苗



谷 駿希



石井 峻



安井 祥太郎



上岡 将大

研修医



田中 一風



石倉 要



新たな風を、あなたに。期待の新戦力が着任！
今年も、左記診療科14名の医師と研修医7名、合わせて21名の新たな医師が当院に変わりました。



外来診察日程表

編集後記 Editor's Note 朝倉編集委員

鳥取県中部の地域医療は、一つの病院だけで支えられるものではありません。医療機関、消防、行政、介護・福祉など、多くの関係機関が連携しながら、地域全体で住民の皆さんの命と健康を守っています。当院でも、新たな装置導入や人材育成を進めるとともに、中部医療圏の連携強化に取り組んでいます。

救急医療や脳卒中診療をはじめ、「必要な医療を、必要な時に、地域で受けられる体制」を守り続けることが、私たちの使命です。これからも、この地域で働く一職員として、地域とのつながりを大切にしていきたいと思ひます。



鳥取県立厚生病院
Tottori Prefectural Kousei Hospital
<https://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyoin/>

〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町150
TEL (0858)22-8181(代)
FAX (0858)22-1350